

「ヨーロッパ諸国による援助 協調の行方と日本」

@第3回「日EU関係ワークショップ」
慶應ジャン・モネEU研究センター

神戸大学大学院国際協力研究科
高橋基樹

「ヨーロッパ諸国による援助協調 の行方と日本」

1. 援助協調とは？
2. 「援助レジーム」の変遷と貧困国支援
3. 貧困削減レジームと欧州諸国の主導権
4. 貧困削減レジームの内在的矛盾と新興援助国
5. 日本の立ち位置と「行方」について

1. 援助協調とは？

広義には

開発援助の複数の供与主体(供与国・機関、以下ドナーという)による、あらゆるかたちの協調

狭義には

1990年代以降にさかんとなった、「援助効果」向上のための、ドナーによる援助の形態・手法の一致・連携を目的とした集合的努力

1. 援助協調とは？

狭義の援助協調：

主に、アフリカの後発途上国を念頭において、その援助の現場で展開 + いくつかの会議

推進の主体は、北西欧諸国 + 世界銀行

日本はこの動きに対し、不即不離の関係

一方の国際協調重視

他方の「顔の見えない援助」への警戒と不信

1. 援助協調とは？

具体的には...

各ドナーの援助プロジェクトは抑制し、セクター・プログラム、一般財政支援などの形で支援

2005年のパリ宣言(ドナーと受入れ国による、援助効果向上のための宣言)の原則

(ア)受入れ国のオーナーシップ(主体性)の尊重、(イ)整合、(ウ)調和化、(エ)開発成果志向、(オ)相互説明責任(高橋2009)

1. 援助協調とは？

整合 (alignment):

受入れ国の開発戦略を尊重し、あらゆる援助の投入をそれに整合させようとする考え

調和化 (harmonization)

援助の形態、援助にかかわる手続き、手法などをできる限り一致させ、受入れ国の運営管理コストの削減を図ること → できる限り受入れ国の仕組みを用いることを推奨(ひも付き撤廃、プロジェクト抑制に限りなく近い)

1. 援助協調とは？

援助受入れ国の現場では

政府 + ドナーによる会合のさかんな展開

セクター・プログラム、コモン・ファンド(プール)の林立

教育セクター、保健セクター、貧困状況調査・・・

一般財政支援 国庫への現金による直接支援

2. 「援助レジーム」の変遷と貧困国支援

援助レジーム論:

van de Walle 1998 「構造調整レジーム」～
「ポスト構造調整レジーム」(← Krasnerの
国際レジーム論)

援助レジームと国際援助システム

国際援助システム: OECD開発援助委員会のメ
ンバー国と国際開発専門機関による、より永
続的な組織的体制

2. 「援助レジーム」の変遷と貧困国支援

貧困削減レジーム(柳原2008、高橋2006、同2009)
1990年代後半に形成

構造調整レジームからの連続と不連続

構造調整とは

1980年代から世銀・IMF主導で展開

市場経済原理と民間主導

ドナー社会が一致しての政策条件の要求

2. 「援助レジーム」の変遷と貧困国支援

1990年代: 援助の危機の時代

戦略的意味の劇的低下 + アフリカ開発の蹉跌

構造調整レジームの失敗と遺産

債務の累積

オーナーシップ問題の浮上

援助プロジェクトの氾濫

援助の役割の低下

民間資金↑、東アジアの「卒業」

2. 「援助レジーム」の変遷と貧困国支援

貧困削減レジームにおける合意事項

公的債務の抜本的な帳消し

重債務貧困国 (HIPC_s) 救済

オーナーシップの尊重

受入れ国自身による「貧困削減戦略」
の策定

援助改革の推進

人間貧困の重点化

(human poverty、教育や保健)

→ 「ミレニアム開発目標」

2. 「援助レジーム」の変遷と貧困国支援

構造調整からの連続性

市場経済原理と民間主導、対外開放

ドナーの合意形成と一致した要求

政策条件の強さ → 「押し付け」

選別性 (selectivity)

3. 貧困削減レジームと欧州諸国の主導権

援助協調の推進者

Like-minded Group:

イギリス、アイルランド、オランダ + ノル
ディック (+ ドイツ、スイス、カナダ…)

理念の共有と固い結束

ブレア労働党政権 (1997 ~)

開発援助政策の鮮明な転換と主導権

国際開発大臣の活躍 (特に、C. ショート)

G8におけるHIPC s 救済の牽引

3. 貧困削減レジームと欧州諸 国の主導権

イギリス、Like-minded Groupの主導

アメリカの援助におけるモンロー主義

世銀との広い合意

クリントン政権下のリベラリズム

ウォルフェンソン体制の貧困削減重視

借款援助の黄昏

← 「ジュビリー2000」

フランス、ドイツ、日本の居心地の悪さ

バーミンガムからケルンへ(90年代末)

3. 貧困削減レジームと欧州諸国の主導権

イギリス、Like-minded Groupの主導(2)

モンテレー(2002) → ローマ宣言(2003)
→ パリ宣言(2005) 一連の動きを主導

一般財政支援のモデル化と推進

サイレント・パートナー協定

例: 特定の国やセクターについてスウェーデンに任せて、ノールウエーはドナーとしては撤退

4 . 貧困削減レジームの内在的 矛盾と新興援助国

一般財政支援 (GBS) とドナーの結束 + 選別性

1990年代以降の南北関係

自由民主主義 + 市場経済の一般化

行財政改革

腐敗の撲滅、アカウンタビリティ...

ガバナンスの準則の収斂

適合しない国の排除

優等生における改革推進

介入手段leverageとしての援助、GBS

4. 貧困削減レジームの内在的 矛盾と新興援助国

オーナーシップ尊重と強い leverage 効果との相克

「劣等生」国家の援助対象からの選別排除

援助の停止(の示唆) → 政治的自由化、規
制緩和、アカウントビリティの担保
援助関係に潜む、深刻なジレンマ

破綻国家化の助長？

援助停止 → 財政難 → 行政の機能
低下 + 治安機構の破綻

4. 貧困削減レジームの内在的 矛盾と新興援助国

新興援助諸国の登場

中国の「援助大国」としての勃興

小林 2007参照

DAC準メンバーとしての韓国

優等生としてのインド？

東南アジア諸国、中東諸国、ロシア、ブラジル、地域大国(南アフリカ等)...

4 . 貧困削減レジームの内在的 矛盾と新興援助国

新興援助諸国の「問題」性

中国の対アフリカ援助

問題国の選別排除が尻拔けに

Like-minded Groupなどヨーロッパ諸国からの強い警戒観

債務累積の再開・・・

中国による協調(?)への模索

資源確保 + 自己顕示から通常の援助へ
援助協調文書への署名(例:ラオス)

5 . 日本の立ち位置について

独自の開発援助の履歴

唯一の非欧米DACメンバー

東アジアの成功と日本のODA

借款重視 + 経済セクター支援

民間との連携の強さ

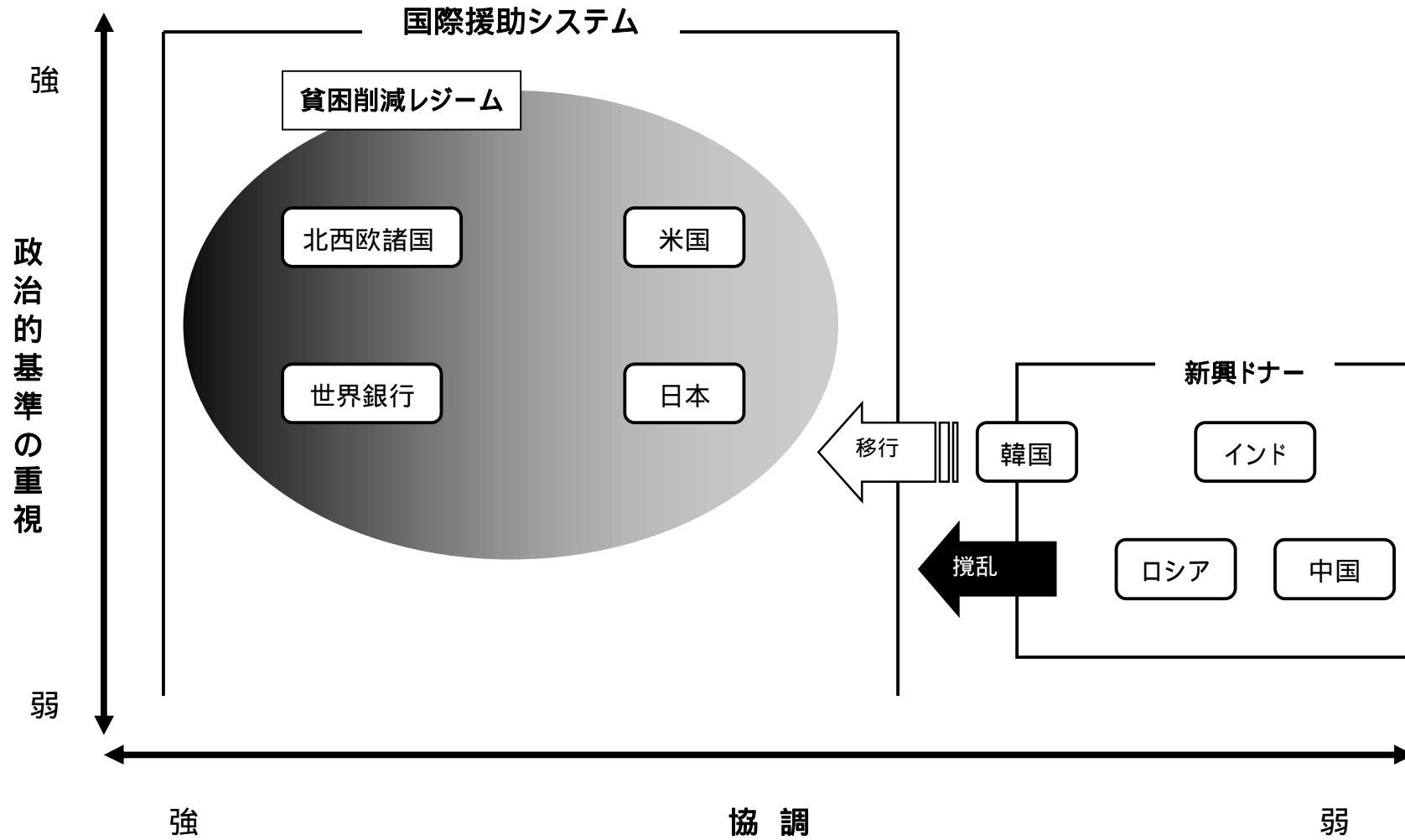
「援助疲れ」の意味の違い

欧州：となりの大陸における貧困の継続

日本：自らの病弊

新興援助国の最大の理解者？

図：2000年代における貧困削減レジームとその環境



5. 日本の立ち位置について

HIPCs救済への違和感

G8での孤立 → 回避

日本は公式的には常に援助協調尊重。背後にイギリス及びLike-minded Group との不信の悪循環

日本政府部内(の一部)ではドナー協調は、「顔の見えない援助」、イギリスによる引き回しと同義語(?)

援助の現場における困難の続出と努力

5 . 日本の立ち位置について

今後に向けて

「強い介入」への日本の違和感を大事にすること: オーナーシップの尊重の微妙さ

北西欧諸国の論理の理解と不信の払拭へ
Like-minded Group側の努力も必要

新政権(日本とイギリス?)の政策は?
日本の位置の相対的重要性↑?

参考文献

- 小林誉明、2007、「中国の援助政策—対外援助改革の展開—」『開発金融研究所報』第35号、109-147頁.
- 高橋基樹、2006、「国際開発援助の新潮流—グローバル・ガバナンスの構築に向けて」西川潤・高橋基樹・山下彰一編『国際開発とグローバル化』日本評論社、239-272頁.
- 高橋基樹、2009、「日本の貧困国援助の比較論的考察—援助レジームの変遷をめぐって—」『国際開発研究』18巻1号(掲載予定).
- 柳原透、2008、「『開発援助レジーム』の形成とその意義」『海外事情』第56巻、第9号(2008年9月号)、87-106頁.
- Krasner, Stephen D. 1983. *International Regimes*. Cornell University Press.
- Short, Clare 2004 *An Honourable Deception?: New Labour, Iraq, and the Misuse of Power* London: Simon & Schuster.
- Simmons, Beth A. and Lisa L. Martin 2002 "International Organizations and Institutions," Walter Carlsenaes, Thomas Risse, Thomas Risse-Kappen, and Beth A. Simmons eds. *Handbook of International Relations*. Sage.pp.192-211.
- van de Walle, Nicholas 1998. "Managing Aid to Africa: The Rise and Decline of the Structural Adjustment Regime." a revised version of a paper prepared for the AERC-ODC Collaborative Research Workshop on Managing the Transition from Aid Dependency in Sub Saharan Africa. 32p.

ご清聴ありがとうございました

神戸大学大学院国際協力研究科

高橋基樹